

館蔵品展

二〇二五年
四月二十六日(土)から
六月十五日(日)まで

- 開館時間 = 9:30から17:00 [入館は16:30まで]
- 休館日 = 月曜日、5/7(水) [但し、5/5(月)は開館]
- 観覧料 = 無料

板橋区立美術館



長谷川利行《水泳場》
1932年

あの時の風景

特集
展示

あの風景を見つめる目

〒175-0092 東京都板橋区赤塚5-34-27
電話 : 03-3979-3251 FAX : 03-3979-3252
<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/artmuseum/>



板橋区立美術館
ITABASHI ART MUSEUM

板橋区立 美術館



●講演会

4月26日(土) 14:00-15:30
「長谷川利行の1930年代、隅田川岸をさまよう」
講師=原田光氏(美術史家)
定員=60名(事前申込不要、先着順)
参加費=無料

●美術講座

5月10日(土) 14:00-15:30
「探検!発見!風景画」
講師=弘中智子(当館学芸員)
定員=20名(要事前申込)
参加費=500円
申込=4月26日(土)9:00より
電話(03-3979-3251)にて受付開始

●ギャラリートーク

5月3日(土・祝)・5月17日(土)
いずれも14:00-14:30、事前申込不要、参加費無料

〔板橋区立美術館の展覧会予定〕
6月27日(金)〜8月11日(月・祝)
2025イタリヤ・ポロニア国際絵本原画展
8月23日(土)〜9月28日(日)
館蔵品展 狩野派の中の人(仮)
11月8日(土)〜2026年1月12日(月・祝)
戦後80年 戦争と子どもたち(仮)

大正・昭和と戦争の時代を挟んで東京の街は時代と共に大きく変化しました。長谷川利行は1930年代、銀座、新宿などモダンな都市文化が花開く東京のにぎわいを好んで描きました。しかし、彼が板橋の東京市養育院で亡くなる1940年には東京の街も軍事色に染まってしまいました。その頃から日本は本格的な総力戦体制に入り、軍事機密に関わることから屋外でのスケッチなども禁じられました。1930年代中頃から流行したシュルレアリスムの影響を受けて描かれた風景は、戦時色が濃くなった日本に暮らす画家たちのいま・ここからの逃避願望も重ねられていくようになります。戦争では多くの画家も亡くなり、空襲の被害を受けた東京の街は一変しました。占領下、生活の再建も思うようにならない中、画家たちは時代を記録していくかのように混乱の様を風景と共に描き留めていきます。画家たちが時代と対峙し、様々な想いを託した「風景」から見えてくるものとは何かを読み解きます。

また、特集展示では、変わりゆく風景を眺め、描き表した画家たち自身のまなざしに着目し、当館の所蔵・寄託作品の中から、画家たちの自画像、肖像画をまとめてご紹介いたします。

●交通案内

●徒歩 都営三田線「西高島平駅」下車約14分
●路線バス(1時間)に1〜2本程度 所要時間約10分
①東武東上線「成増駅」北口2番のりば「増17」区立美術館経由 高島平操車場「行き」区立美術館「下車」
※東京メトロ有楽町線「副都心線」地下鉄成増駅「5番出口」
②都営三田線「高島平駅」西口2番のりば「増17」区立美術館経由 成増駅北口「行き」区立美術館「下車」
タワシー東武東上線「成増駅」北口または都営三田線「高島平駅」西口より約5分



館蔵品展 あの時の風景

右から時計回りに
寺田政明 《自画像》1966年
井上長三郎 《風景(下板橋)》1926〜27年
小牧源太郎 《風景(意識と無意識の離接点における偶成No.2)》1939年
石井茂雄 《不安な都市シリーズ-不安な階段》1956年頃
寺田政明 《運河と人》1984年
全て板橋区立美術館蔵

二〇二五年
四月二十六日(土)から
六月十五日(日)まで